

生徒の個性を生かす指導を心がけて



榎原市立畝傍中学校
教諭 横山 健一

教員としての毎日は本当に必死で、授業では失敗することもありました。その度に、「次の授業ではこうしよう」、「ここに気をつけよう」と考えていました。しかし、授業を上手く進めることにばかり気を取られ、目の前の生徒をしっかりと見ることができていないことに気がきました。同じ授業をしても、生徒の生きた思いと子どもらしい反応によって全く違うものになることが分かりました。本当に重要なことは、生徒をよく理解し、生徒に合った方法で授業を行うことでした。教員の思いどおりにはいかない、けれどもそこがおもしろく、だからこそ生徒の可能性は広がっていくのだと感じました。個性豊かな子どもたちと共に、これからも学び成長し続けていきたいと思えます。



生徒たちと共に学ぶ喜び



奈良県立西の京高等学校
教諭 牧野 葵

生徒の内に秘めた力に驚かされる毎日です。そして、授業でそれを引き出す喜びが私のパワーの源となっています。箏（楽器）で「さくらさくら」の前奏を創作する授業を行った時のことです。目標や創作のポイントを示した後、各グループの活動を観察すると、生徒は様々な意見を出し合い、完成に至る道筋もそれぞれ異なっていました。一体どんな曲が出来上がるのか、とても楽しみでした。いよいよ完成した曲の発表。それは、私の予想を遥かに超えたものでした。「できるかもしれない。やってみよう!」と、生徒たちの意欲をかき立て、学びに向かうきっかけを作り、一人一人の可能性を引き出し、より深い学びに導く。そんな教員になれるよう、日々学び続けていきたいと思えます。



一生懸命な子どもたちに学ぶ日々



奈良県立大淀養護学校
教諭 丸尾 貴都

発想力豊かで、一人一人違う個性の子どもたちと過ごす毎日は、想像を超えた楽しさにあふれています。そんな日々の中で、一生懸命に学ぶ子どもたちの頑張りに気がきました。毎日の学校生活で起こる出来事は、子どもたちにとって簡単に乗り越えられることばかりではありません。今日できなかったことが、明日すぐにできるようになるとは限りません。子どもたちの気持ちに寄り添い、成長を信じて指導する先生方に支えられ、子どもたちは小さなことを積み重ね、じっくり自分のペースで成長していきます。子どもたちと共に自分も成長できる先生という仕事にはやりがいがあり、一生懸命に取り組むことの大切さを子どもたちから日々学んでいます。



児童の自信につながるように



下市町立下市小学校
栄養教諭 上西 朱音

「ごちそうさまでした。おいしかった!」「全部食べられたよ。」児童からこのような声を聞くたびに、本当に嬉しくなります。毎日給食の時間に、全学年をまわって給食の様子を見ながら声かけをしています。教室に行くと、児童の成長を日々肌で感じることができます。最初はなかなか思いが伝わらず、完食できない児童にどんな声かけをすればよいか思い悩んでいました。しかし、自分が小学生だった頃の給食での経験を話したり、食べることができた時に共に喜んだりすることが児童の自信につながり、完食できる日が徐々に増えてきました。このように、児童との関わりが大切であることを実感しました。私は、給食を通して児童が自信を育むことができる、児童の心に寄り添った指導のできる栄養教諭になりたいと思えます。

